



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

心と心のつながり

先日の成人式での教育長からのお話の中で紹介されていた「たったそれだけで」という話を紹介いたします。このお話は、三井住友信託銀行が主催として、未来に伝え残したいと思う大切な「人・モノ・コト」を「わたし遺産」として、「私が綴る、未来に伝える物語」の第4回大賞作品です。

たった、それだけで

私の睫毛がちょっと好きだ。

19歳の夏、深夜。うまくいかない世界のことや、今までの悲しい記憶や、形を成さない不安や寂しさに堪えきれずに大泣きして、誰でもいいから助けて欲しいと警察署へ電話した。今思えばとても非常識だけれど、当時の私は粉々になる寸前だった。

サイレンを消したパトカーに乗り、取調室のような所ではかみたいに泣きじゃくった。もういなくなりたい。最後に私がぼつりと言うと、向かいに座った警察官の男性が、

「睫毛長いじゃん。すっぴんでその長さなんて、珍しいからもったいないよ。」

いきなり睫毛の話にくるとは夢にも思わず、ふあ？と変な声が出た。でも自分の何かを褒めてもらえたのは随分と久しぶりで、勝手に涙が出た。先ほどのこととは全く違う涙が。

今でもあの言葉をふと思い出す。睫毛にそっと触ると、何だか全部大丈夫な気がする。

「27歳の警察官が、生きる意味を失った少女に、全力で、だけどさりげなく、精一

杯真摯に向きあった。睫毛は、あなたは生きる価値のある人間だという意味の言い換えだと彼女にも分かった。誰も知らない深夜の一室で、警官は確かに一つの命を救ったのだ。」(選定委員の方の話)

そっと心に寄り添うことが、悲しみの涙から安心の涙へと繋がった素敵なお話だと思いました。同じ涙でも180度異なる涙。安心の涙は、顔を上げて、前を向いて歩いていくことができる力を引き出す、美しいものだと感じました。

さて、先日、多くの青年との交流をされている方から、今、孤立して寂しい思いをしている若者が大勢いるとの話を伺いました。そんな若者に必要なことは、ありのままを受け止めていこうという思いであり、「君が必要だよ。一緒に生きていこう。」という思いであり、どんなことでもいいから褒める、認めることであり、そういう存在と巡り合えることが大切だと話されていました。そんな存在の一人になりたいという思いで青年たちの支援をしているその方は、世の中の悲しい事件は、「ねえ僕を見て、僕はここにいるんだよ。」という叫びが聞こえない現代社会の歪みが原因でありその歪みは同じ社会を生きる私たち自身が創り出しているのではないかと問題提起をされていて、深く考えさせられました。

大人の手前に存在している子供たちに、「あなたに会えて嬉しい。一緒に過ごせて嬉しい。あなたがいてくれることが本当に嬉しい。」と日々伝えていきたいと改めて思います。安心の種を心の中にたくさんまいて成長を支えていきたいといます。